

## 高齢者における運動器慢性疼痛の身体活動疫学研究

齊藤, 貴文

<https://doi.org/10.15017/1931678>

---

出版情報 : 九州大学, 2017, 博士 (人間環境学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 :

氏名	齊藤 貴文					
論文名	高齢者における運動器慢性疼痛の身体活動疫学研究					
論文調査委員	主査	九州大学	教授	氏名	熊谷	秋三
	副査	九州大学	准教授	氏名	増本	賢治
	副査	九州大学	教授	氏名	村木	里志

### 論文審査の結果の要旨

本論文は、身体活動および座位行動と運動器慢性疼痛との関連性を明らかにするために、研究Ⅰ：運動器慢性疼痛者における身体活動および座位行動の実態，研究Ⅱ：歩・走行活動および歩・走行以外の活動と部位別（下肢・腰背部痛）の有訴率との関連性，および研究Ⅲ：座位行動と部位別（膝・腰痛）の有訴率との関連性を検討した。65歳以上の地域在住自立高齢者を調査対象とし、790名（男性366名、46.3%、女性424名、53.7%）を解析対象者とした。

研究Ⅰの結果、運動器慢性疼痛有訴者の総身体活動量は有意に低かったが、特に、歩数および歩・走行活動量が有意に低値を示した。一方、歩・走行以外の活動量および座位時間に有意差は認められなかったが、下肢痛者と腰背部痛者に区分して解析した場合、歩・走行以外の活動量に有意差が認められた。次に、研究Ⅱの結果、総身体活動量の中間群では下肢痛の有訴率が低値を示した。さらに、行動別では歩・走行活動量が多いほど下肢痛の有訴率は低く、歩・走行以外の活動量が多いほど有訴率は高かった。一方、腰背部痛においては、総身体活動量が多いほど有訴率は低かった。さらに、行動別では歩・走行活動量が多いほど腰背部痛の有訴率は低いが、歩・走行以外の活動量が少ないほど有訴率は高かった。最後に、研究Ⅲの結果、座位時間と膝痛との間に有意な関連性、すなわち座位時間が長いほど膝痛有訴率が低かった。一方、腰痛と座位時間との間には有意な関連性は認められなかった。

以上の成績から、運動器慢性疼痛者の総身体活動量は低いことから、身体活動量を段階的に増加させていく必要があるが、膝痛を含む下肢痛者には、歩・走行活動は推奨されるものの、歩・走行以外の活動が増え過ぎないように適度な座位時間を確保していくことの必要性が示唆された。一方、腰痛を含む腰背部痛者には、同様に歩・走行活動は推奨されるものの、歩・走行以外の活動量が低下しないように、日常生活で歩・走行以外の活動を増加させていくような指導の必要性が示唆された。

よって、本論文は博士（人間環境学）の学位に値するものと認める。